

 **KEIWA**
COLLEGE REPORT

敬和学園大学と地域社会をつなぐコミュニケーション誌
敬和カレッジレポート

第83号 December 2015

発行/敬和学園大学後援会 敬和学園大学

Close up

創立25周年記念シンポジウム
「戦後70年!今あらためて『歴史認識』を問う」

敬和祭/ふれあいバラエティのご報告
インドネシアでのアクティブラーニング/ボランティア活動報告

学長ビジョン/学生寮のご案内
企業との就職懇談会/学業選抜特待生制度
授業紹介⑤「共生とケア演習」 趙晤衍





アクティブラーニング紹介⑤ 「サンタプロジェクト」

クリスマスの時期に病院で過ごす子どもたちに本を贈る「サンタプロジェクト」が行われています。このプロジェクトは、敬和学園大学の山崎由紀先生のアメリカでの経験をもとに、本学と地域の書店、病院が協力し、7年前にスタートしました。

書店におかれたクリスマスカードには、病院で過ごす子どもたちの性別と年齢が記されています。お客さまはカードを1枚選び、その子どもに思いを寄せながら本を1冊購入し、カードにメッセージを記します。その後、本はきれいに包装され、カードと共にクリスマスの日子どもたちの元に届けられます。このプロジェクトを通じて、温かい心がつながっています。

もくじ CONTENTS

Close up	1
創立 25周年記念シンポジウム 「戦後70年! 今あらためて『歴史認識』を問う」	
みんなで創り上げた第 25 回敬和祭のご報告	4
ふれあいバラエティのご報告	6
ボランティア報告(関東・東北豪雨/復興支援) ...	6
インドネシアで日本語教育アクティブラーニング ...	7
学長ビジョン①「タウンとガウンによる新しい大学教育」...	8
リベラルアーツの学びを深める「学生寮」のご案内 ...	9
敬和学園記念募金のお願い	9
テレビコマーシャル/企業の皆さまとの懇談会 ...	10
学業選抜特待生制度のご案内.....	10
授業紹介⑤「共生とケア演習」 趙昭衍.....	11
同窓会リレー・エッセイ⑤.....	12
「協調性を学んだ母校の教育に感謝」 笹川孝志 (6 期生)	
キャンパス日誌 (8 月～ 11 月)	13

〈表紙写真〉

開学前から毎年飾りつけられている
敬和学園大学のクリスマスツリー

創立二五周年記念シンポジウム

「戦後七〇年！今あらためて『歴史認識』を問う」

今年、敬和学園大学は創立二五周年を迎えました。この記念の年は、第二次世界大戦後七〇周年と重なります。二〇一六年度より国際文化学科に「歴史探究コース」が誕生することから、同学科の藤野豊先生（日本近現代史）、丸島宏太先生（ドイツ近現代史）そして木下光弘先生（中国近現代史）に、英語文化コミュニケーション学科の山崎由紀先生（アメリカ社会史）を加え、「歴史認識」の国際比較を行う創立二五周年記念シンポジウム「戦後七〇年！今あらためて『歴史認識』を問う」を、一〇月一七日に本学S三一教室で開催しました。

集团的自衛権を容認する安保法制の成立、憲法改正の議論など今年は戦争と平和を考える年でもありました。参加者の皆さまのモチベーションは高く、質疑応答の時間には議論を深める質問を多数受けました。当日の熱気こそお伝えできませんが、シンポジウムの概要をここにご報告します。

（創立二五周年記念行事実行委員会）

●日本はなぜ侵略戦争を反省できないのか

（国際文化学科 藤野豊）

私たちは、戦争への反省という、負けた戦争だから反省しているのではないのでしょうか。東京大空襲、沖縄戦、広島・長崎の原爆…、日本は戦争で大きな犠牲を払った、このような悲劇はもうこりこりだ、だから戦争を反省するというのではないのでしょうか。しかし、日本は中国の重慶に対して大空襲をしまし、平和な南の島々では、現地の住民を巻き込んだ激しい地上戦も行いました。原爆にしても、日本でも開発していました。日本よりも早く、アメリカが原爆を完成したにすぎません。戦争を反省すること、被害だけではなく、加害も含めて反省することでしょう。

また、戦争は連鎖しています。日清戦争・日露戦争で獲得した「満洲」の権益

を守るうとして、アメリカとの対立を深め、権益擁護のために満洲事変を起こし、日中全面戦争へと拡大しました。また、日露戦争で得た「列強」という地位を維持するためにも第一次世界大戦に参戦し、ミクロナシアの島々を事実上、領土に組み込みました。そして、太平洋においてもアメリカと対立するようにになりました。いわゆる太平洋戦争は突然起こったのではなく、日清戦争以来の戦争の連鎖のなかで起こったものです。私たちは、近代日本が起こしたすべての戦争に対し反省するべきではないのでしょうか。

しかし、最近、戦争への反省を口にすると、自虐的だ、反日的だと攻撃されます。なぜでしょうか。それは、日本が再び戦争を起こす可能性があるからです。だから戦争への反省はしては

Close up



ならないのです。今、進められている集団的自衛権の行使を前提とした安保法制はそうした危機感を現実のものとしています。あえて、歴史認識を問うシンポジウムを開くのも、こうした政治と社会の動きを意識してのことです。

●「植民地化」された内モンゴルを考える

(国際文化学科 木下光弘)

七〇年前の大戦を認識する際、「加害者」「被害者」などのように二項対立的に議論されることが多いですが、こうした認識では内モンゴルで暮らすモンゴル人の存在は忘れ去られてしまいます。

日本の傀儡とされる満洲国には、東部内モンゴルの大部分が含まれており、内モンゴルのモンゴル人たちは日本の「植民地支配」を受けていました。ところが近年は彼らから「満洲国統治を肯定的に捉える」意見が散見されています。

こうした意見に共通しているのが、当時のモンゴル人は清代から続く漢人の入植や開墾への危機意識があったという指摘です。そこに、権益の拡大を目指す日本が現れたのでした。「反漢人」感情を持つモンゴル人の中には、日本をモンゴルの生活の「保護者」としての期待感を持つ者もいました。つまり日本は必ずしもモンゴル人の「敵」とは言えない側面があったのです。

ただしモンゴル人の期待した、漢人からの土地所有権の回復は進みませんでした。さらに、東部内モンゴルの人々が「満

洲国民」とされたことで、モンゴル民族が西部内モンゴル、外モンゴルという形で分断されたという側面も見落とせません。しかし中華人民共和国成立後、新たに大規模な漢人入植が行われます。その結果、内モンゴルは農耕中心の世界になり、そのうえ環境破壊も進んでいます。満洲国の「肯定」はこうした現状とも関係しているのです。

ところで内モンゴル近現代史上、日本は当事者の一人ですが、日本における「内モンゴルの歴史認識」（現状認識も）は深められていません。私はこの点を今後の問題意識の一つとしたいと考えます。

最後に、歴史は上述のように複眼的です。学生たちには「複雑さ」が理解できる力を持つて欲しいと思います。

●ドイツはナチスの時代をどう語ってきたか

(国際文化学科 丸島宏太)

ドイツも戦後しばらくの間は、決してナチ時代の過去と真摯に向き合ったわけではありません。当時は、ナチズムはよい理念だが実行の仕方がまずかったという意見が過半数を占めていましたし、ニュルンベルク裁判でホロコーストの実態が明らかにされても、我々はそれを知らなかった、という態度が一般的でした。

ドイツが過去と向き合う最初のきっかけは、一九六一年にイスラエルではじまったナチの大物アイヒマンに対する裁判、一九六三年からはじまったアウシュヴィッツ裁判でした。後者はドイツ人が



それぞれの国の「歴史認識」をスライドを交えて解説

ドイツ人の犯罪行為を裁くという画期的なものでした。これに加え、一九六〇年代末にはじまった若者たちの反乱があります。戦後世代の彼らが父親世代のナチ時代における責任追及をはじめたのです。次の転換点は一九七〇年代末ごろです。それを象徴するのが、ドイツでテレビ放映されたアメリカ映画「ホロコースト」です。加害者、被害者などさまざまな視点からユダヤ人迫害を扱ったこの映画はドイツ社会に大きな影響を与え、被害者に焦点を当てた過去との取り組みが本格化する契機ともなったのです。

ドイツでも、いつまで謝罪せねばならないのか、過去の恥部の掘り返しはもう結構といった議論は後を絶ちません。しかしながらドイツが国家として、時には躊躇しながらも、戦争中に被害を与えた国々と賠償問題などで真摯に向き合っ

きたことは、戦後ドイツがヨーロッパだけでなく世界で信頼を勝ち得ていく上で、大きなメリットとなりました。

●アメリカは日系人強制収容と原爆投下にどのように向き合ってきたか

(英語文化コミュニケーション学科 山崎由紀)

世界最古の近代民主主義国家として独立したアメリカは、南北戦争で一九世紀半ばに分断した後、「民主主義に照らして正しい歴史観」を共有し、未来に向けて歴史を築く国としての再統合を果たしてきました。

一九四一年の真珠湾攻撃後の日系人一世・二世の強制収容所隔離を行ったアメリカ政府に対し、一九七〇年代に賠償に立ち上がった三世たちは「アメリカ合衆国憲法に照らして」「居住や財産の自由が侵害された」という反民主主義的な政



会場に集まった聴衆との熱のこもった質疑応答

府判断を材料として、政府にその「不正・過ちを正す」リドレス運動を展開しました。その結果、一九八八年、政府は過ちを認め、レーガン大統領が署名した「市民の自由法」のもとで、合衆国政府からの謝罪と賠償を実現したのです。

しかし、原爆投下についてはアメリカ側からの謝罪は公には進んでいません。スミソニアン航空宇宙博物館のエノラ・ゲイ展示騒動に見られるとおり、第二次大戦時の日本は民主主義の敵であり、戦争の早期終結のためには原爆投下が必要であったとする説が広く受け入れられ、共和党の支持団体の一つである退役軍人会が原爆被害について博物館などで詳述されることを拒んでいることが理由です。多くの日系人は広島出身ですが、原爆問題に沈黙を守るのは、原爆投下が民主主義に明確に違反する事由とアメリカ政府が解決のためにとりうる具体策が提示できないためと言えます。

一方で、原爆投下を命令したトルーマン大統領の孫クリフトン・トルーマン・ダンニエル氏やアメリカン大学のピーター・カズニック教授といった一般市民たちが、原爆理解を被害の側面からも進めようという動きは、アメリカにおける戦争や原爆投下の認識を一層多面的にするものであり、期待が持てます。同時に、私たち日本人も、謝罪ばかりを要求するのではなく、共に核兵器廃絶に向けて何ができるか、未来志向の解決に舵をきり直していくべき時にあると考えます。

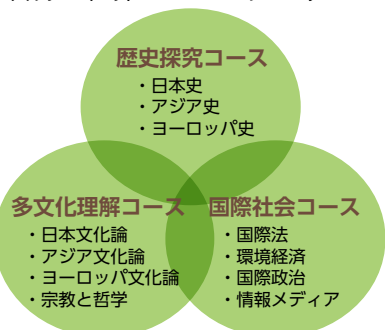
国際文化学科に
「歴史探究コース」新設

二〇一六年四月より、国際文化学科に「歴史探究コース」「多文化理解コース」が新設され、「国際社会コース」とあわせ、三コースとなります。

特に「歴史探究コース」では、新潟県内の私立大学では唯一、日本とアジア、ヨーロッパの近現代史を専門で学ぶことができます。このコースでは、人類社会の過去における変遷・興亡を探究し、そこから人類にとってよりよい社会を築いていくことを考えていきます。また、教員免許(中学校社会、高校地理歴史・公民)も取得できます。あなたの関心にあわせて選んだコースを中心に学びを深め、地域社会・国際社会への扉を大きく開いてください。

国際文化学科の学び

異文化を学び、
自分と世界のつながりを考える





1番人気だったラーメンサークルの屋台



教職課程の展示企画



チアリーダー部のステージ



国際ダンスサークルのステージ



Free Stylersのステージ

一〇月二四日、二五日に敬和祭が開催されました。今回のテーマは「Welcome!」皆で創造(つく)る敬和祭、学生だけでなく、地域の皆さまと一緒に敬和祭を創造しつくりあげていきたいという想いのもと、実行委員みんなが一丸となって準備に入りました。

今回は、実行委員会の立ち上げが例年よりも一ヶ月ほど遅れてしまいました。が集まった実行委員みんなで夏休みを返上して準備をすすめました。屋台や展示アトラクションの企画、広報と、それぞれが役目と責任を持って準備と実施にあたり、例年どおり開催することができました。短い期間の中で企画・調整・実施といった一連の業務をこなしていく中で、実行委員の一人ひとりが大きく成長できたことを実感しています。

今年も敬和学園大学の設立二五周年を迎えることもあり、敬和祭にビッグなゲ

みんなで創り上げた

多くの人との関わりで充実

国際文化学科四年

山口 優衣



私は敬和祭で、ブラスバンド部の演奏と屋台、美術部の展示、そして実行委員の活動に携わりました。私にとって最後の敬和祭、のんびり楽しむことは叶わなかったですが、多くの人との関わりを持つことができました。

何よりも力を入れたのは、ブラスバンド部でのフルートのアンサンブルでした。卒業した先輩と山崎由紀先生も

加わり、今までにない六重奏です。以前から、先輩や先生たちと一緒に演奏したいねと話していたことが実現できました。先生と先輩には感謝の気持ちでいっぱいです。

また、初めての実行委員の活動では、学生はもちろん企業の方々など、さまざまな人と接する機会をいただきました。他の委員と共に、協賛の願いや学生団体の対応に悪戦苦闘していた期間は、とてもためになった経験であると同時に、今では忙しく楽しい思い出です。

いくつも兼部していたために、手が回らないことがあった自分をフォローしてくれた友人たちに支えられ、充実した敬和祭となりました。無事に敬和祭を終えられたのは皆さんのおかげです。ありがとうございました。

第二五回敬和祭のご報告

ストをお呼びして盛り上げようと考え、「ヒロシ&エルシヤラカーニお笑いライブ」、そして同窓会企画として「東国原英夫氏講演会『挫折力が人を磨く』」を実現しました。それぞれ三〇〇人を超える方たちが来場され、会場は笑いと感じの渦に。大盛況でした。同窓会からは、ふわふわベアーや育児スペースの提供があり、親子連れの皆さまにも安心して楽しんでいただくことができました。

さらに、今回の新しい企画として、「屋台と展示の人気投票！」を実施し、敬和祭にいらっしやった方々に一番よかったと感じた屋台と展示に一票を投票していただきました。その結果、一番人気のあった屋台企画「ラーメン研究サークル」、展示企画「教職課程」を表彰し、副賞として協賛企業さまから豪華賞品を贈呈しました。おめでとうございました。

(敬和祭実行委員長 菊地隼人)



ブラスバンド部の演奏



アニメ研究部のダンス



Jazz Questの演奏



軽音楽部による学生ライブ



卒業生による「とやまん風カレー」

在学生、卒業生が創り上げる敬和祭

二〇一四年度卒業

尾澤 玲名



卒業して初めて参加した敬和祭は、在学中とは違った見え方がありました。

今回私は、卒業生で運営する「とやまん風カレー」の屋台に参加しました。在学中には数ある屋台の一つとしか思わず気にも留めていませんでした。しかし、いざ参加してみると、先輩卒業生の皆さんは、敬和祭を盛り上げるために、忙しい時間をぬって事前準備をし、当日もどの団体よりも早く

仕込みをし、誰よりも楽しそうにカレーを販売していました。もちろん私自身もとても楽しかったです。また、学生たちのイベントもとても充実していました。ダンスサークルや軽音楽部、ブラスバンド部、新しくできたJazz Quest、どの団体もたくさん練習してきたことを感じさせる高い完成度で驚きましたし、少し羨ましくもありました。在学生はもちろん、卒業生も参加して創り上げられている敬和祭はとても素晴らしいと身をもって実感しました。

そんな敬和祭に学生として参加できるのは四年間だけです。在学生の皆さん、卒業してから参加するのも楽しいですが、在学中に積極的に参加して貴重な学生の時間を楽しむのもよいかと思えます！

ふれあいバラエティのご報告

お客さまと学生スタッフが一体感をもって楽しめました

ふれあいバラエティは、地域の福祉施設の方々に大学にお招きして交流を深める敬和祭のイベントです。お客さまと学生とがふれあうことでみんなが笑顔になることを目的としています。

今年も、共生ボランティアネットのメンバーを中心に実行委員会を組織しました。テーマを「昭和まつり」とし、飾り付けを工夫し、さらにこの三年間で初めてレクリエーションを取り入れました。お客さまとスタッフが一体感をもって楽しめるようにという私の願いが込められています。六〇名以上の学生が力を合わせ無事に大成功することができました。

（ふれあいバラエティ実行委員長 佐藤 葵



お客さまと学生との笑顔のふれあい

準備と計画、そして仲間との協力の大切さ



共生社会学科 二年

阿部 咲

私はふれあいバラエティに幹部として参加させていただきました。準備に半年も時間をかける、規模の大きなボランティアのイベントに初めて参加するということで、とても大きな不安と緊張がありました。しかし、その分多くの学びと出会いがあり、自分自身の成長にもつながったように思います。

まず、このような大きなイベントを実行するためには、事前準備と綿密な計画、そして仲間との協力が重要です。当たり前のことですが、今回その重要性を再確認しました。また、どうすればお客さまにもっと楽しんでもらえるか、相手と真剣に向き合い思いやることの難しさと楽しさを改めて知ることができました。

当日は臨機応変な対応ができず、周囲に迷惑をかけてしまうこともありましたが、先輩や仲間のフォローとお客さまの「ありがとう」の一言で最後までがんばることができ、とても大きな達成感を得ることができました。

これからもたくさんの方々のボランティア活動に参加し、ここで得たたくさんの方々の知識と経験を活かしていきたいです。

関東・東北豪雨ボランティアに参加して



共生社会学科 二年

佐藤 葵

九月二〇日に関東・東北豪雨で被災した栃木県へ行ってきました。活動内容は浸水した家屋の床下から泥を出す作業です。水害から一〇日でもまだ傷跡が生々しく、泥には水や砂利、汚物などが混じって重く、体力的にも精神的にも辛い活動でした。現地の方からの感謝の言葉をいただきがんばることができましたが、いつ自分の住む街に災害が起こるかわからない、他人事ではないと考えさせられました。そして、このことをまわりに伝えることで、支援の輪をさらに広げていくことが私の役割だと感じました。



泥で汚れた家財を洗う佐藤さん（右）

「ディプロマ」「日本語教育プログラム」履修学生

インドネシアで日本語教育アクティブラーニング

敬和学園大学では、リベラルアーツの幅広い分野の学びを体系的に組み合わせることで専門性を養う「ディプロマプログラム」を用意しています。このディプロマの一つである「日本語教育プログラム」を履修した学生の一人が、この10月、日本語授業アシスタントとしてインドネシアに旅立ちました。

英語文化コミュニケーション学科四年の佐藤ももさんは、現在、インドネシア・ポゴールにあるチビノン高等学校で日本語授業のアシスタントとして活動しています。敬和学園大学の「日本語教育プログラム」は、日本語を駆使する能力と日本文化について多角的な知識を修得し、



日本語を学ぶ生徒の皆さんと
(後列右から3人目が佐藤さん)

日本人学生が海外で日本語教育に携わる時に役立てるようにカリキュラムが構成されています。佐藤さんは、このプログラムを履修し、学内でも日本語チューターとして、留学生たちの日本語指導などに活躍していました。

佐藤さんは、日本語教育プログラムのコーディネーターである有田佳代子先生のすすめで、国際交流基金アジアセンターが昨年より実施している「日本語パートナーズ」派遣事業に応募し、採用されました。日本語パートナーズとは、アセアン諸国の中学・高等学校等で日本語教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行うものです。現在、佐藤さんは、日本語の授業でひらがなや発音指導のアシスタントや、習字や折り紙、歌やダンスなどの日本文化の指導を行っています。

敬和学園大学のディプロマプログラムは、今回紹介した「日本語教育」のほかに、「グローバル市民」「地域経営」「情報メディア」「英語イマージョン」「児童英語教育」「キリスト教教育」の七つのプログラムが用意されています。このディプロマプログラムによる体系的な学びにより、多くの学生が自分の可能性を広げ、実社会での活躍につなげていくことを期待しています。

復興支援インターンに参加して



国際文化学科二年

細貝 采可あやか

八月三〇日から九月五日の七日間、復興支援インターン気仙沼クールに参加し、現地のフカヒレを製造・販売している企業さまにお世話になりました。フカヒレの製造工程はほぼすべてが手作業で、専門性の高い作業もあり、実際に体験させていただいたのですが、とても難しかったです。

震災当時のお話を聞き、被災地の今を目の当たりにしてまだまだこれからだ、と思いました。これからも自分のできることをがんばると同時に、被災地の現状を伝えていきたいです。



フカヒレ製造の現場で働く細貝さん

山田耕太学長による敬和ビジョン①

「タウン」と「ガウン」による新しい大学教育

敬和学園大学では、「キリスト教主義」による人間教育、グローバルな視点で考える「国際主義」教育、地域社会に貢献する「地域主義」教育をミッション・ステートメントで掲げています。二〇〇八年に中長期計画のビジョンを、「少子高齢化と地域格差の進む時代において、持続可能な社会の担い手を育成します」と定めました。

今年度から中長期計画ビジョンの実現に一段とアクセルを強め、学科を横断する副専攻的プログラム「地域経営プログラム」を開発し、提供しはじめました。それは一年生全員が地元の地域社会の現場を学ぶ「地域学入門」、地元の自治体や企業のトップなどが講義し、現場を見学する「地域学1・2」を校にしています。その他に、地域社会でのアクティブラーニングを特定の科目群を履修することとで単位化する「アクティブ・ラーニング演習1・2」（二年度）、地元企業との連携による長期インターンシップ「アクティブ・ラーニング実習1・2」（三年度）、地域の課題解決に取り組む「地域学研究」（四年度）で構成されています。

地域社会でのアクティブラーニングは、「地域連携センター」（新発田学研究センター）や学生と市民が運営する「まちカフェ・りんく」を拠点にして展開されていきます。二〇一六年四月にオーブ

ンする新発田駅前複合施設内の「学生寮」はこのアクティブラーニングを実践しやすい場所にあり、地域貢献の人材育成には欠かせない教育施設となります。「地域連携センター」「まちカフェ・りんく」「学生寮」の三点を中心にして、点から線へ、線から面へと「まちなかキャンパス化」を目指していきます。

こうして「タウンとガウン」（町と大学）が協働して、地域社会に定住し貢献する人材を育成し、地域再生と大学再生を図る新しい大学教育を展開します。

（学長 山田）



まちカフェ・りんくから独立

「コミュニティ・ランチカフェ」がオープン

敬和学園大学の学生が中心に運営する「まちカフェ・りんく」は、近年少なくなってきた住民同士が一緒にくつろげる場所を提供することで、地域コミュニティの活性化を目指しています。そのまちカフェで働いていた市民スタッフの鶴巻さんが独立し、新たにランチカフェを開業しました。鶴巻さんは、まちカフェで二年間活動した後独立、家族で育てた新鮮な野菜をまちカフェで学んだ手際の良い調理で提供しています。地域住民の皆さんとの交流など身近な方との共生がすすみ、お店のコンセプトが徐々に実現しているそうです。将来的には、社会起業を学ぶ学生たちのインターンシップ受け入れを考えてくださるとのことでした。



ランチカフェ「つむぎや」
新発田市中曾根町1-1-5
Tel.0254-23-3610

二〇一六年四月、新発田駅前開設

リベラルアーツの学びを深める「学生寮」のご案内

二〇一六年四月に新発田市との包括連携協定の一環として、敬和学園大学の学生寮を新発田駅前開設します。

この学生寮は、リベラルアーツの学びを深めるため、次の三点に重点をおいた運営をすすめていきます。

- ① 学生自治により社会性を身につける
 - ② 地域連携センター、まちカプエ・りんくとの共同事業により地域を学ぶ
 - ③ 隣接する新発田市立図書館との連携
- そして、駅前という立地を活かし、新発田市と連携したワークシヨップやイベントを開催し、寮生同士や地域の方々との交流の中で、社会人として身に付けるべき自発性や協調性、コミュニケーション力、リーダーシップを養います。



新発田駅前複合施設の3・4階が学生寮

●安心・安全な居住空間

複合施設内の三階に男子寮（一八名）、四階に女子寮（二二名）を設置し、セキュリティキーで守られた専用の出入口から入寮します。居室は、ユニットを二人で共有し、プライベートを尊重し独立性を確保した構造となっています。また、食堂を兼ねたコミュニケーションスペースを用意し、寮生同士の積極的な自治や活動をすすめる環境が提供されます。

●利便性の高い生活空間

新発田駅より徒歩一分。生活に必要な家具（机、ベッド等）は備え付けられ、寮内にはランドリースペースがあります。同じ施設内にコンビニ、クリニック等があり、基本的な生活用品はいつでも調達できます。また、夕食は一食五〇〇円で提供され、大学まで授業時間に合わせ定期バスを運行します。

【賃料ほか】

- ・賃料：三五、〇〇〇円（月額）
- ・共益費：一五、〇〇〇円（月額）
- ※ 共益費は、電気・ガス・水道代、インターネット利用料を含む

【お問合せ先】

敬和学園大学 教務課
 電話：〇二五四・二六・二五一四
 ※ 二月二二日（土）、一月九日（土）に見学会を実施します。お気軽にお問合せください。

法人・高校創立五〇周年、大学創立二五周年

敬和学園記念募金のお願い

大学は二五年目を迎えました。この間に三七七五人が卒業し、社会の中で活躍しております。地域関係者からは良心的な人材を育てていると高い評価をいただいております。そうした信頼関係の中から、新発田市の要請もあつて新発田駅前複合施設内に学生寮を開設することになりました。「地域連携センター」、「まちカプエ・りんく」と共に地域を再生する新しい大学教育が展開できると考え、寮運営・活動資金のために募金をお願いいたします。

あわせて学生への経済的支援体制の充実を図りたいと考えております。向学心があり地域社会に貢献できると思われるにもかかわらず、経済的理由によって勉学の機会が失われる若者が少なくありません。そこで奨学金制度の拡充を切望しています。（学長 山田）

募金の方法について

銀行振込み、郵便局払込み、クレジットカード、コンビニエンスストア払込みでのご入金を承っております。詳細は、ホームページでご確認ください。



学生たちの魅力を再認識

テレビコマーシャルの制作秘話

八、九月のオープンキャンパスに合わせてテレビコマーシャルを制作しました。久しぶりのCM撮影、今回の狙いは何より敬和学園大学のよいところをもっと多くの方に知ってもらおうこと。歴代学長が目指してきたものを追いかけるながら「イキイキとした学生の姿」を伝えられる映像を目指しました。四〇名ほどの学生に協力してもらい、編集現場にも立会って制作をすすめました。できあがった映像に映る魅力的な学生たちを見て、こういった学生を多く生み出せる学風なんだと改めて実感しました。夏休みにも関わらず集まってくれた学生たちと制作に感謝します。
(広報タスクフォース 富川)



テレビコマーシャルはYoutubeで
ご覧いただけます
<https://www.youtube.com/keiwacollege>

社会実践による学生の成長を紹介

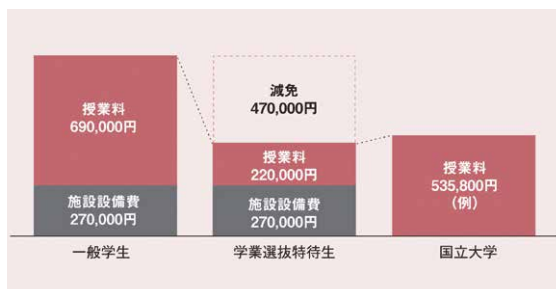
企業の皆さまとの懇談会を開催

企業の採用ご担当者との懇談会を一月一日、ANAクラウンプラザホテル新潟にて開催し、九一社二五名のご参加をいただきました。第一部は丸島宏太就職委員長から本学の就職支援体制について説明があり、その後、学生たちから「アクティブラーニングの成果発表として「復興支援インターン」と「留学生支援・国際交流」の取り組みについてのプレゼンテーションを行いました。第二部は、企業ご担当者、本学学生、教職員を交えた懇親会がなごやかな雰囲気の中で行われました。企業ご担当者からは学生の発表に関するお褒めの言葉や、本学の取り組みに対する期待の声が多く寄せられました。
(就職委員会)



学生によるアクティブラーニング成果報告

学業優秀な学生をバックアップ! 国立大学並みの学費で学べます。



二〇一六年度入学者を対象とした「学業選抜特待生制度」の出願がはじまります。一月三〇日に実施する「学力試験型」または「センター試験利用型」(一期・二期・三期)の学業選抜特待生入試に合格すると、学費が国立大学並みに減免されます。すでに、他の入試で合格し、入学手続きをすすめている方も対象となります。学業選抜特待生を目指し、多くの受験生がチャレンジしてくれることを期待しています。
(入試委員会)

一月五日より出願スタート

学業選抜特待生制度のご案内

授業紹介⑤ 「共生とケア演習」 担当：趙暉行

多様化する現代社会の課題を地域福祉の視点で考える

この演習では、地域福祉という視点を軸にまちづくりや地域活性化への理解を深めています。福祉のイメージと言えば、障がいや高齢、児童といった分野をすぐ思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。現代社会における生活課題は複雑・多様化しており、その解決策も多様なことが昨今の社会福祉実践の大きな特徴です。これらの視点を踏まえて、地域住民の抱える生活課題をまちづくりや地域活性化の視点から捉えなおす福祉の新しい方向を地域ぐるみでどう位置づけるかについて考えています。これまでのように大学内での自己完結的な学びだけでなく、学生たちが地域から学び、地域によって成長することを心がけています。



粟島住民との情報交換と交流

身近な地域を自分自身が考えるゼミ



共生社会学科 年
長谷川 直生[※]

このゼミは、主に地域社会に重点を置いた内容となっています。これまで、粟島浦村での二泊三日の合宿、上赤谷地区でのソバの刈り入れボランティアなどの活動を行っており、授業内ではそれぞれの地域に関する学習を進めてきました。特に粟島浦村についての学習は、前期からさまざまな地域活性化の可能性や島内の問題の解決について議論を交わし、「海岸に流れ着いた大量の漂着物でアートを製作」などさまざまなアイデアについて話し合いました。ついには一年先輩の合宿に一足早く参加させていただくに至り、粟島への理解を深めていくことができました。このような地域を主体にした学びを活かすため、後期には自分の住む地域の環境問題、地域活性化などについての個別報告を課題にしています。訪問地や自分の住む地域について、自分で考えることのできる機会が与えられているのとはとてもよいと思っています。これから行われる一二月の上赤谷地域住民と行う予定の新ソバの試食会、そして来年の粟島訪問に向けて、さらに学びを深めていきたいと思えます。

学事予告

◆二月◆

- 二日 AO 入学試験（三期） 面談日①
- 八日 クリスマス行事
- 九日 第一回入学前スクーリング
- 二四日 AO 入学試験（三期） 面談日②
- 二五日 冬期休暇（一月四日まで）
- 復興ランチ in まちカフェ

◆一月◆

- 四日 休業（創立記念日振替）
- 五日 講義再開
- 八日 卒業論文提出締切
- 一六日 大学入試センター試験（七日まで）
- 二三日 後期講義終了
- 二五日 後期末試験（三〇日まで）
- 三〇日 一般入学試験（A日程）
- 外国人留学生入学試験（二期）
- 学業選抜特待生入学試験（学力試験型）
- 三日 社会福祉士国家試験
- 春期休暇（四月四日まで）

◆二月◆

- 一日 後期集中講義（一九日まで）
- 三日 AO 入学試験（四期） 面談日①
- 一〇日 AO 入学試験（四期） 面談日②
- 二二日 後期末追試験（一六日まで）
- 一六日 一般入学試験（B日程）
- 二四日 再試験（二五日まで）
- 二九日 図書館蔵書点検（三月一日まで）

◆三月◆

- 九日 一般入学試験（C日程）
- 外国人留学生入学試験（二期）
- 一日 学内合同企業説明会
- 二三日 阿賀北口マン賞授賞式
- 一八日 卒業式
- 卒業記念パーティー
- 二四日 AO 入学試験（五期） 面談日①②
- 推薦入学試験（二期）
- 三一日 学年終わり



協調性を学んだ母校の教育に感謝



一九九九年卒業
笹川 孝志

私は、大学卒業後二〇〇三年に高等学校教員として採用されました。現在、英語の教員として、日本有数の豪雪地である津南町にある、新潟県立津南中等教育学校に勤務しています。中等教育学校では、中学一年生から高校三年生までが同じ学び舎で生活しています。その中で、中学二年生の担任として、非常に多感な時代を過ごす生徒たちと共に、こちらも日々学ばせられながら充実した毎日を過ごしています。

勤務校は、今年で創立一〇周年を迎えた、公立の中高一貫校です。私は開校四年目から勤務していますが、赴任当初はまだ全学年が揃っておらず、年々生徒の数やそれに合わせて教職員の数も増えていき、学校としてどんどん大きくなっていく姿を目にしてきました。私が、学生時代の敬和学園大学も、まだ敷地内に体育館がなく、大学のバスや自家用車を使って市内の体育館へ移動して体育の授業を受けました。また、図書館や演習室などが増築された時代でもあり、大学が施設面でも整っていく時代でした。今年、勤務校の部活動の練習場所として大学の

懐かしい体育館をお借りする機会がありました。大変お世話になりました。

昨年度まで、敬和学園大学の同窓生が私を含めて三人、津南中等教育学校に勤務していました。これはなかなか珍しいことだと思います。敬和学園大学の教職課程の授業では、合宿や教育実習事前・事後指導など協調性が求められる場面が多々ありましたが、その経験もあって「抜群のチームワーク」で校務にあたれたことは幸せなことでした。

学生時代から教職を志し、新潟県内で教職課程を履修できる大学ということで敬和学園大学の門をたたき、入学させていただきました。在学中、厳しくも暖かくご指導していただきました先生方、ありがとうございました。敬和学園大学のご発展を心から願い、感謝の言葉とさせていただきます。



津南中等教育学校の教壇に立つ笹川先生

寄付者のご芳名

(二〇一五年二月二日現在、敬称略)

〈一般〉

相場 三千男、荒井 重人、
藤井 研一、井海 宏子、小林 勝、
長嶋 暁子、野田 義史、
山際 多美子、
東中通教会矯風会新潟、村上教会、
聖心こども園

〈卒業生・在学生・保護者〉

栗原 学(四)、番場 なつみ(二)

〈学園関係〉

長澤 廣子、鈴木 佳秀、
後援会 (二)、オレンジ会

(一) 内、漢数字は期生、算用数字は回数



皆さまからのご寄付は、学生生活の充実に活用させていただきます。

〈郵便振替口座〉

〇〇六三〇・九・一九八九六
敬和学園大学

キャンパス日誌



8 August

- 1 聖籠町キッズカレッジ陶芸教室② (33名)
- 3 教員免許状更新講習 (14名)
- 4 夏期休暇 (～9月16日)
- 10 前期集中講義期間① (～8日)
- 11 前期補講期間 (～11日)
- 13 八海高校大学見学 (1年生 5名)
- 17 夏期特別休業 (～16日)
- 17 前期集中講義期間② (～21日)
- 19 教育活動アクティブワーク (～21日、国立妙高自然の家)
- 22 オープンキャンパス③ (123名)
- 22 秋季外国人留学生入試面談①
- 23 聖籠町キッズカレッジ英語教室② (6名)
- 23 AO入試 (1期) 面談日①
- 23 秋季外国人留学生入試面談②
- 25 職員研修会
- 27 城下町新発田民謡流し (42名、写真①)
- 28 新津南高校大学見学 (1年生 31名)
- 29 AO入試 (1期) 面談日②
- 29 秋季外国人留学生入試面談③

9 September

- 2 教授会
- 4 AO入試 (1期) 合格発表
- 16 前期卒業式
- 17 秋季入学式
- 18 履修相談日
- 理事会
- 19 胎内市立黒川中学校大学見学 (3年生 33名)
- 後期講義開始
- オープンキャンパス④ (52名)
- 英検2級・準2級一次・二次試験対策講座② (53名)
- 聖籠町ふどう祭り交歓会
- 23 履修登録期間 (～10月6日)
- 演劇教育セミナー 2015 in 敬和 (120名)
- 講師 鈴木聡之氏「インプロワークショップ」
- 25 チャペル・アッセンブリ・アワー⑮
- 説教 山田耕太 学長
「二つのキリスト教：正戦論と非戦論」
- 前期エッセイ・コンテスト授賞式
- 前期資格取得奨励奨学金授与式
- 26 AO入試 (2期) 面談日①



10 October

- 2 チャペル・アッセンブリ・アワー⑩
- 説教 下田尾治郎 宗教部長「その時を信じるかゆえに」
- 教職課程履修学生の発表会
- 3 AO入試 (2期) 面談日②
- 6 新潟市北区オープンカレッジ① (18名)
- 講師 有田佳代子 特任准教授
「多文化共生社会と『やさしい日本語』を使ったコミュニケーション」
- 7 教授会
- 8 新発田市立本丸中学校職場体験
(～9日、まちカフェ・りんく、3年生 2名)
- 9 チャペル・アッセンブリ・アワー⑰
- 説教 加藤順 学長補佐「主の道をまっすくにせよ」
- 講話 安積力也 基督教独立学園高校前校長 (写真②)
- 「出発する人生へ」
- AO入試 (2期) 合格発表
- 14 北越高校大学見学 (1年生 80名)
- 16 チャペル・アッセンブリ・アワー⑱



説教 藤野豊 教授

- 「戦火の中の燈～小笠原登と戸田八重子」
- 講話 伊藤知明 写真の町シバタ「ハワイの家族」
- 17 創立 25 周年記念シンポジウム (230名)
- 「戦後 70 年！今あらためて『歴史認識』を問う」
- シンポジスト 藤野豊 教授、木下光弘 講師、丸島宏太 教授、山崎由紀 准教授
- 20 新潟市北区オープンカレッジ② (18名)
- 講師 藤本晃嗣 准教授
「難民の受け入れと多文化共生社会」
- 21 新潟市立上山中学校大学見学 (3年生 11名)
- 22 新発田中央高校大学見学 (1年生 43名)
- 23 ふれあいバリエティ (65名)
- 24 第 25 回敬和祭、進学相談会 (～25日)
- ホームカミングデー (～25日)
- 講師 東国原英夫 氏「挫折力が人を磨く」(450名)
- 27 新発田市立猿橋中学校職場体験 (～28日、2年生 2名)
- 新発田市立猿橋中学校大学見学 (3年生 5名)
- 29 新発田市オープンカレッジ④ (24名)
- 講師 ハンス＝クリスティアン・シンク 写真家
「ドイツ写真家の見た新潟」
- 30 チャペル・アッセンブリ・アワー⑲
- 説教 山田耕太 学長「イエスの誘惑」
- 講話 小川潤 朝日新聞東京本社販売局
「新聞の読み方講座」
- 村上桜ヶ丘高校大学見学 (1年生 75名)

11 November

- 3 ウィークデー・オープンキャンパス (31名、写真③)
- 4 教授会
- 5 新発田市立菅谷小学校福祉体験 (6年生 19名)
- 6 チャペル・アッセンブリ・アワー⑳
- 説教 下田尾治郎 宗教部長「イエスがくださる水」
- ボランティア報告会
- 11 企業との就職懇談会 (ANA クラウンプラザホテル新潟、91社)
- 13 チャペル・アッセンブリ・アワー㉑
- 説教 金山愛子 教授「一つと全体」
- 講話 池間哲郎 カメラマン、JAN 代表、沖縄大学非常勤講師
「懸命に生きる人々」
- 14 推薦入試 (1期) (指定校 I・II、公募、スポーツ)
- 16 相談援助実習 2 (～11月28日)
- フィールド・トレーニング 1 (～11月27日)
- 18 臨時教授会
- 19 新発田市オープンカレッジ⑤ (12名、写真④)
- 講師 マルチヌス・ツット フランス語講師
「フランスの家庭料理」
- 20 チャペル・アッセンブリ・アワー㉒
- 説教 山崎由紀 准教授「サンタ・プロジェクト」
- 講話 丸島宏太 教授「就職活動について」
- 推薦入試 (1期) (指定校 I・II、公募、スポーツ) 合格発表
- 21 1・2 年生保護者との懇談会 (55名、写真⑤)
- 26 理事会
- 新発田市オープンカレッジ⑥ (15名)
- 講師 新発田市菓子業組合
「新発田の和菓子を作ってみよう」
- 27 チャペル・アッセンブリ・アワー㉓
- 説教 近伸之 豊栄キリスト教会牧師
「沖へ漕ぎ出せ」
- 講話 榎本栄次 世光教会牧師
「人であること、人になること」
- クリスマスツリー点灯式
- 28 大学・高校合同クリスマス研修会
(敬和学園高校)



Gems in KEIWA

チャレンジ学生ファイル Vol.50

サークルと教職課程を通して成長

英語文化コミュニケーション学科 4年
鈴木 雛琴



教職課程の仲間たち（右から2人目が鈴木さん）

私は、4年間の大学生活で本当に多くのことを学び、得ることができました。

1年生から所属していたダンスサークルでは、敬和祭や外部のイベントに向けて毎週練習に励んでいました。その中でメンバー同士の衝突もありましたが、自分たちが楽しむダンスではなく、見ていただく人たちに楽しんでもらうことを第一に考えるように、みんなで気持ちを切り替えていきました。このことで、自分たちのダンスがよりよいものへと変わって、踊ることが一層楽しいと感じられるようになり、メンバー1人ひとりの成長につなげることができました。

また、1年生後期から履修してきた教職課程でも自身の大きな成長と学びを得ることができました。授業はもちろん、中学校へのインターンシップや教育実習など実践的に生徒たちと接する機会を得て、自身の教育理念や目指す教師像について考える機会が多くありました。今後はこれらの学びを活かし、授業を通して生徒の個性や自尊心を養っていける教師を目指し、日々成長していきたいです。

中村義実先生のコメント

鈴木さんとの最初の出会いは彼女が高3の時に参加した「英検対策集中講座」でした。一昨年のAYFでは、フィリピンにて彼女の奮闘ぶりを見届けました。現在、アジアの貧困をテーマにした卒論に取り組んでおり、卒業後は出身高校で英語を教える仕事に就きます。初志を貫徹した鈴木さんの学生生活は果敢な挑戦の連続でした。今後の挑戦にもエールを送り続けたいと思います。



敬和学園大学の最新情報

敬和学園大学

検索

www.keiwa-c.ac.jp

